

東芝モバイルディスプレイ(株) 深谷工場 サイトレポート情報

東芝モバイルディスプレイ(株)
深谷工場

所在地 : 埼玉県深谷市幡羅町1-9-2

敷地面積 : - (東芝深谷工場敷地内)、建家面積: 28, 800m²

設立 : 2002年4月 従業員 : 986人(2009年5月現在)

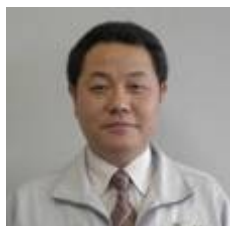
主要製品 : 液晶パネル

ISO14001認証取得: 2002年4月より1997年1月取得の東芝深谷工場認証範囲に含む
最新更新年月: 2009年1月 (ISO認証番号: EC99J2054)



サイトの紹介

東芝モバイルディスプレイ(株)深谷工場は、平成14年(2002年)に(株)東芝の液晶事業部が分社化され新会社として操業を開始、液晶パネルの開発、設計及び製造を行っています。
生産活動における環境への取り組みを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、地域社会から信頼される企業グループを目指して、従業員一丸となって取り組んでいます。



2008年度の環境の主な取り組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

1997年1月に認証取得、2009年1月に4回目の更新審査に合格

☆環境保全体制の充実

法令、条例の順守、現場管理の強化、環境教育の実施

☆化学物質排出量の削減

化学物質の排出量を2002年度比で43.7%削減

☆CO₂排出量の削減

CO₂排出量は2004年度比で生産高原単位が64.3%増加し悪化となったが、総排出量は17.4%削減

☆廃棄物ゼロエミッションの継続

廃棄物発生量の生産高原単位を2004年度比で44.9%削減 最終処分率は0.45%

☆環境調和型製品の開発

液晶モジュールの消費電力及び重量の低減、製品開発時のアセスメント実施

☆資材取引先に関する環境配慮

取引先に指導・支援(全2社2工場)、環境配慮資材の調達(100%)、廃棄物委託先現地確認(8件)

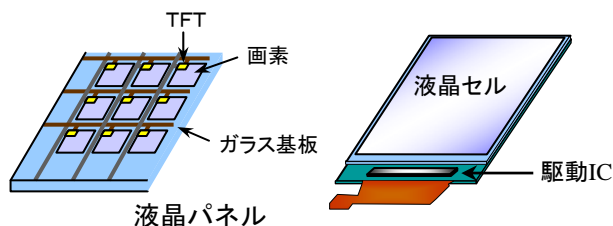
☆全員参加・啓発活動の展開

環境月間・3R推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、環境ニュース配布等

☆地域との協調

地域の各種環境行事への参加、清掃ボランティア活動への参加等

製品、環境技術開発紹介



環境コミュニケーションの紹介

- ・環境報告書の発行 : 2005年度より毎年発行
- ・地域との交流 (参加) : 列島クリーンキャンペーン、埼玉工業大学主催パネルディスカッション出展
(主催) : 環境講演会(立正大学地球環境科学部)、日本アルミニウム協会施設見学受入れ
東芝グループサマーフェスティバル in FUKAYA(プラントツアー、体験教室)
- ・自治体等主催行事参画 : 環境保全関係施設等視察研修会、地球温暖化対策の強化に係る説明会
土壌汚染対策に係る講演会、化学物質を考える県民のつどい

株式会社東芝 深谷地区工場

環境方針

株式会社東芝深谷地区工場は、地球環境問題が人類の生存に重要な課題であることを深く認識します。このため当工場は、映像メディア機器、各種ディスプレイ等の開発設計・製造拠点として、ライフサイクルまでを考慮して製品を社会に提供します。

また、生産活動面等においては、荒川、利根川流域の多様な生態系や水と緑に恵まれた豊かな自然環境を大切に、立地条件を考慮しつつ、環境負荷の低減活動をとおして社会に貢献することをめざします。

そして、東芝グループ経営理念、東芝環境保全基本方針、ISO14001規格及び東芝が同意した企業行動指針や顧客要求事項に基づいた環境保全活動を、技術的・経済的に可能な範囲で推進します。

1. 環境保全への取り組みを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境影響評価結果に基づき、環境目的及び同目標を設定して、定期的に見直すことにより環境保全システムの継続的な改善活動を全員参加で取り組みます。
2. 環境保全に関する法令、規制、条例及び受入れを決めたその他要求事項の順守は企業の基本的な社会的責務ととらえ、さらに自主基準を設けて、環境保全レベルの向上を図ります。
3. 製品については地球資源が有限であることを認識し、当工場が開発設計から製造まで一貫した拠点であることを考慮して、次のとおり環境負荷の低減に配慮した環境調和型製品づくりを推進します。
 - (1) 消費電力の低減
 - (2) 再生材使用による資源の有効活用
 - (3) 製品重量軽減等の省資源化
 - (4) 環境関連物質の削減・代替化
4. 事業活動・サービスに係る環境側面について、環境汚染の予防に努めると共に、環境負荷の低減に配慮した次の環境保全活動を推進します。
 - (1) 化学物質排出率の低減及び排出量の削減
 - (2) 省エネ施策の推進と適正な動力供給によるCO₂排出量の削減
 - (3) 廃棄物の削減及び3R活動・有価物拡大
 - (4) 本来業務に直結した部門活動
5. 自然と共生できる環境調和型工場をめざし、地域・社会とのコミュニケーションを密にして協調連帯を図ります。
6. グループ一体となった環境保全活動を推進するため、取引先等に積極的に指導・支援を行います。

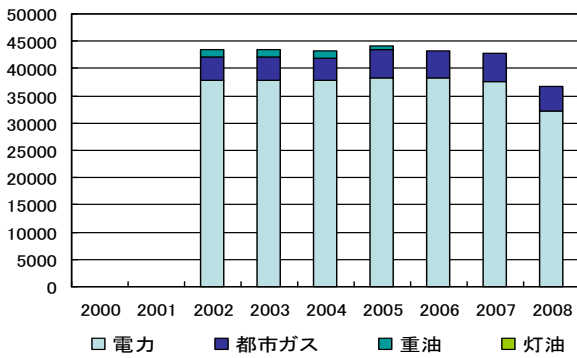
2009年4月1日

株式会社東芝 深谷地区工場 環境保全責任者

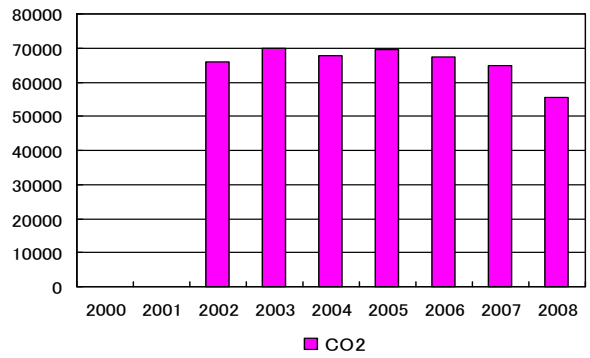
宮寺 常夫

環境負荷データ

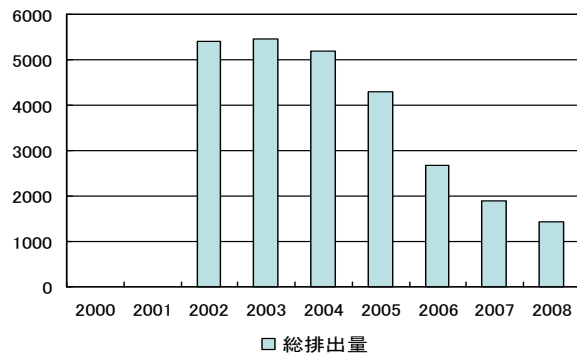
エネルギー使用量(単位:KL)



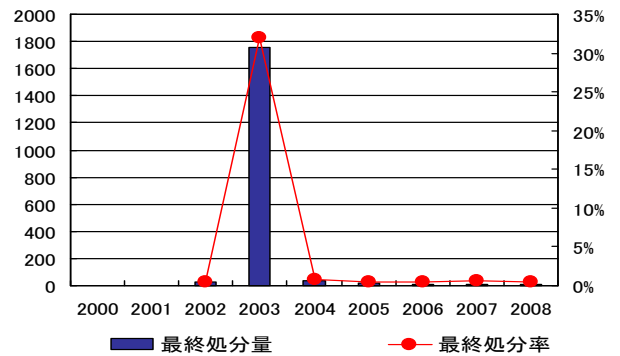
CO2排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

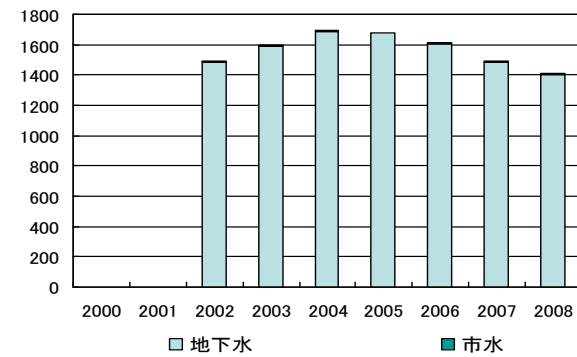


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン・%)

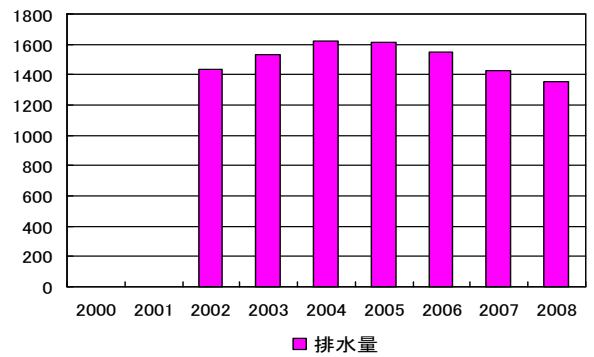


主な廃物名: 汚泥、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、ガラス屑、金属屑、廃油等

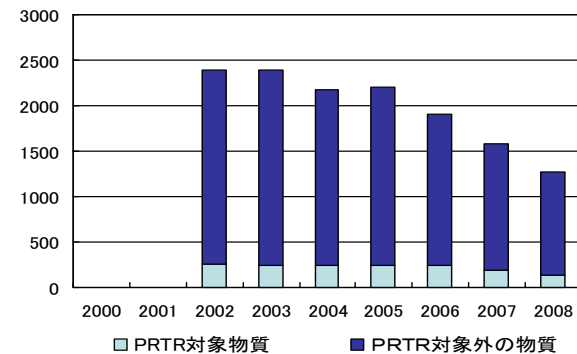
水の使用量(単位:千m³)



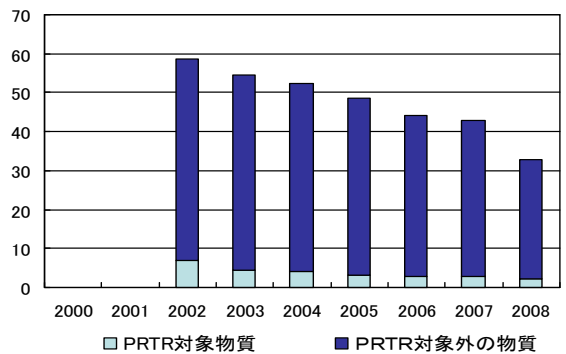
排水量(単位:千m³)



第4次ボランタリープラン削減対象の取扱量の推移(トン)



第4次ボランタリープラン削減対象の排出量の推移(トン)



主な化学物質: ふっ化水素、2-アミノエタノール、アセトン、アンモニア、酢酸ブチル、PGMEA、塩化水素、硫酸

遵法管理状況

大気測定結果:(多管式小型貫流ボイラー(都市ガス使用) 11台)

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	150	50	18~34	年2回
SOx(Nm3/h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(mg/Nm3)	猶予期間中	猶予期間中	—	1回/3年

排水測定結果(主な測定結果):31施設(酸又はアルカリ表面処理施設、排ガス洗浄施設等) 河川(福川~利根川)へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6	6.4~8.1	7.0~7.6	月2回
BOD(mg/ℓ)	25(県条例)	22	1~15	月2回
COD(mg/ℓ)	160	36	2~12	月2回
SS(mg/ℓ)	60(県条例)	31	4~7	月2回
窒素(mg/ℓ)	120	22	0.7~13.0	月2回
フッ素(mg/ℓ)	8	4	0.5~2.6	月2回

騒音・振動測定結果:特定施設(騒音172施設(空気圧縮機及び送風機)、振動12施設(圧縮機))

	測定場所・時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	70	65	59	1回/3年
	敷地境界:夜	65	55	55	1回/3年
振動(dB)	敷地境界:昼	65	60	48	1回/3年
	敷地境界:夜	60	55	31	1回/3年

(実測値は2007年度の測定値。次回は2010年度測定予定)

その他測定結果(有害物質排水測定:主な測定結果)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
鉛(mg/l)	0.1	0.06	<0.01	月2回
六価クロム(mg/l)	0.5	0.1	<0.05	月2回
トリクロロエチレン(mg/l)	0.3	—	<0.001	月2回

環境事故・指導指摘・苦情の有無

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし